

9. 下水道の整備

都市化に伴う雨水流出量の増大によって、下水道が整備された地区でも浸水被害が発生するようになってきました。このため、下水道整備としては、時間 50 mm の降雨に対応できるようにするため、幹線や雨水貯留施設などの「基幹施設の整備」を進めてきました。また、平成 11 年度から 20 年度にかけ「できるところからできるだけだけの対策を」という方針で「雨水整備クイックプラン」を実施し、浸水被害の軽減に努めています。

一方、近年の気候変動などを背景に、区部においては時間 50 mm を超える集中豪雨が局所的に発生しています。こうした状況を契機として、東京都では「東京都豪雨対策基本方針」を平成 19 年に策定し、今後の豪雨対策の方向性を取りまとめています。

下水道局では、時間 50 mm を超える豪雨に対して浸水被害を防止するため、平成 25 年 12 月に「豪雨対策下水道緊急プラン」を策定して対策の充実・強化を図っています。このプランの中では、75 mm 対策地区として、豊島区南大塚（千川幹線流域）が対象になっています。

豊島区としても、雨樋の増設、雨水浸透柵の整備、区道の透水性舗装、貯留施設の設置など、都と連携して雨水流出抑制対策の推進に積極的に取り組んでまいります。

なお、主な下水道幹線等の整備状況は、図表 2-3-53 のとおりです。

図表 2-3-53 下水道幹線等の整備状況

